

令和 8 年 2 月 20 日

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース	
A グループ研究A	
校舎コード(代表者校舎の市費コード)	
521031	
選定番号	139

代表者	校舎名:	中野小学校
	校舎長名:	牧野 美奈子
	電話:	06-6352-3258
	事務職員名:	
申請者	校舎名:	大阪市立中野小学校
	職名・名前:	教頭 城谷 昌宏
	電話:	06-6352-3258

令和7年度 「がんばる先生支援」報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究(1年目)												
2	研究テーマ	思いを高め合い、互いに役割を果たしながら、主体的に活動する特別活動															
3	研究目的	<p>本校では、特別活動の研究を7年前から取り組んでいる。子どもたちの力で学校づくりをしていくことに目標として、児童会活動、また、その基盤となる学級活動を研究科目として取り組んできた。人の役に立つことに喜びを覚え、憧れられる高学年を育てられるよう異学年交流にも力を入れて活動を進めてきた。特別活動の基盤となる学級活動を3年間研究し、4・5・6年目は児童会活動・クラブ活動を加えて研究を進めてきた。7年目の今年度は、学校行事にも目を向け、研究を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の思いを伝えあえる学級活動の話合いを追求する。 2 係活動を活性化し、学級の一員として役割を果たす児童を育てる。 3 委員会活動を活発にする手立てを探究する。 4 たてわり班活動を生かしてリーダーを育て、フォロワーシップも共に育てる。 5 学校行事を見直し、児童の自主的な活動が生かせる内容を組み込んでいけるようにする。 6 全教科での交流学习に学級活動で培った話合いが生かせるようにする。 															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>①6年間特別活動の研究を進めてきたが、今年度学校行事を絡めていくこととなり、10月21日、修学旅行での広島県の本川小学校と平和について交流することができた。事前に大阪についての壁新聞を送ったり当日は本校が大阪空襲について本川小学校の児童からは広島原爆について説明してもらい学習を深めることができた。関西万博で学んだことを作品展に生かすなど今までの研究をより深めることができた。また、学級活動・児童会活動・クラブ活動も今年度も力を入れて実践し紀要にまとめることができた。</p> <p>②研究内容 ○学級活動を学級経営の中心に置き、子どもたちの「前向きに生きようとする意欲」や「集団で問題解決する力」を高める支援・援助の手立てを工夫し、題材選定も行った。授業実践を通じた研究(全体授業研究会 年間3回 低(学級活動(1)10月17日)・中(学級活動(2)6月25日)・高(学級活動(1)9月11日)で研究授業を1本ずつ行い研究を深めることができた。併せて市学級活動部の公開授業も受け、総研で発表し、全市に広めることができた。) 高学年の授業研究は、府特活の研修もかねて授業公開し、文部科学省の教科調査官にお越しいただいて来年度からの新学習指導要領における特別活動についてお話しいただき研修を深めることができた。 ○クラブ活動では、異学年での活動を通しておたがいのよさを知り、めあてをもって自主的に取り組むことにより協力して活動することの楽しさを味わうことができるようにした。室内レクリエーションクラブの授業実践(10月14日)を通して研究を深めることができた(全体授業研究会年間1回) ○児童会活動では、代表委員会の年間を通じた取り組みについての実践報告と委員会活動は各委員会ごとに実践報告を紀要にまとめることができた。 ○学校行事については、入学式、修学旅行、作品展など感動体験を盛り込んだり、交流を通して子どもたち一人一人の豊かな人間性や社会性の育成につなげることができた。 ③特別活動は、すべての教育活動の基本となる活動であるため、「聞く」・「話す」・「自分の意見をまとめる」ことが「主体的・対話的で深い学び」を進めるのに大いに役立ち他教科の基本となる力を身に付けることができた。また、問題を話し合いで解決する、係活動等を通して「人の役に立つことに喜びを感じる」児童を育てることで学校生活が豊かになり達成感が持てる児童が増えた。異学年交流により相手に対して思いやりを持って接することの大切さや、リーダーシップ、フォロワーシップを育てることができた。その経験が、児童会活動、クラブ活動、学校行事と児童自らが学校づくりに参画していく学校づくりにつながり中野小学校の伝統になっている。 令和8年1月14日 都島支部教員研究発表会において7年間特別活動の研究に取り組んできた成果を区内に広めることができた。</p>															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 9 月 11 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 102 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">中野小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				日程	令和 7 年 9 月 11 日	参加者数	約 102 名	場所	中野小学校			備考			
日程	令和 7 年 9 月 11 日	参加者数	約 102 名														
場所	中野小学校																
備考																	

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>学級活動・委員会活動・クラブ活動とそれぞれ個人用ノートを作成し、めあてをもって取り組む。必ず振り返りを行い、自己評価・相互評価を実施する。そのことで、達成感が持て、自主的に活動が進められる。</p> <p>《検証方法》 各ノートに書かれた自己評価・相互評価から目標を達成できたと答える児童が75パーセント以上にする。</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>学級活動ノート、委員会活動ノート、クラブ活動ノートにそれぞれ教師からのコメントを入れて、活動意欲を継続して持たせられることができた。約80パーセントの児童が、目標を達成できたと答えることができた。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>学級活動の実践の経験の少ない教員が進んで指導できるように他の教員の授業が見れるように機会を増やす。授業研究会では、進んで発言できるような場を設定し、自信をもって授業づくりができるようにする。児童とともに学級活動を進め、学級経営に生かせることができる。 ○カリキュラムマネジメントを通して教員の資質・能力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 活動の事前と事後において、教員・児童アンケートを実施し、学級目標の達成度を90%以上（2月）にする。 カリキュラム・マネジメント・チェック表を用いて実践前後に教員を対象とした10項目のアンケートを実施し、資質・能力の向上を分析する。</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>普段から先輩教員の学級活動の授業を見ることができるようになり、また、市学級活動部の授業を本校で行い、区の主任会も併せて行うことで、学ぶ機会を持つことができた。学級目標の達成度は、平均して約81%であったので、目標を達成することができた。 カリキュラムマネジメントについては、実施後に向上している教員は、70%であった。やはり特別活動について難しいと感じている教員がいるので、今後も研修を深めていきたい。</p>
		<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p>
		<p>《検証方法》</p>
		<p>〔検証結果と考察〕</p>

6	研究全体を通じた成果と課題	<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p>
		<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>学級活動（1）で6年生が話し合ったことが全校に生かされ、どの学級もしっかり話し合っ、なかのまつりの店の内容を決めたので、それぞれの学級が実践を通して大きな達成感を持つことができた。府特活を兼ねたことで、普段聞くことができない文部科学省の教科調査官 和久井伸彦先生のお話を聞くことができ、来年度からの新学習指導要領について特別活動の担う役割を詳しく知ることができた。今年度の研究紀要を和久井先生に読んでいただいて研究の成果がよくわかるとお褒めの言葉をいただいた。また、和久井先生が講演の中で本校の公開授業での成果をお話しいただいていると聞き、教員の励みになった。</p> <p>都島支部の教員研究発表会の指導講評に7年間本校の研究に携わりご指導いただいた大石せんせいにしていただき、継続して研究することのよさ特別活動が子どもたちの力になることを伝えていただいた。</p> <p>また、クラブ活動を19時間確保することで、不登校児童がクラブの時間に登校できるようになり、卒業遠足にも参加することができた。</p> <p>課題は、やはり教員によって取り組みに差があり、児童の満足度にも影響を与えているので、各学年で題材選定についても話し合い、できるだけ児童が話し合う機会が同じようになるようにしていく必要がある。</p>
		<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p>
		<p>3. 継続研究（3年目）</p>
		<p>《代表校園長の総評》</p>
		<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>1年間通して特別活動の研究を進め、学級活動の経験を児童会活動・クラブ活動・学校行事に生かして子どもたちが主となって企画し実践を進めることができた。また、公開授業や講演会を府特活を兼ねて行った結果、文部科学省の調査官にも来ていただいて新学習指導要領での特別活動の担う役割も研修することができた。また、区の教員研究発表でもクラブ活動の実施時間を20時間に設定していることや本校の取り組みを通して特別活動を中心に置いて学級運営を行うよさが伝えられた。</p>
		<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p>
		<p>3. 継続研究（3年目）</p>